

別紙様式

令和6年度倉橋中学校区研究推進計画

校番30 倉橋小学校
校長名 高越 久美子

- 1 学校教育目標
かかわる つながる 学び続けるひと～未来社会に役立つことを見据え～
- 2 目指す児童生徒像
主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	構造化され生きて働く概念的な知識を身に付け、自在に活用することができる。	実社会・実生活の中から見出した課題について、多角的・多面的に考察し、論の展開や表現の仕方を工夫して、効果的に自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を自分のこととしてとらえ、自ら計画を立て、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。
中期	学習した内容や方法を正しく理解し、実生活や新たな課題の解決に活用することができる。	実社会・実生活の中から課題を発見し、集めた情報の中から必要な情報を整理・分析して考え、根拠を明確にしながら、筋道を立てて自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を発見し、目標をもって友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。
前期	学習した内容や方法を正しく理解し、課題解決に活用することができる。	身のまわりから課題を発見し、集めた情報から考え理由を明らかにしながら、順序よく自分の考えを相手に伝えることができる。	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。

※児童生徒用は別紙参照

- 4 研究主題等
 - (1) 主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒の育成
～豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくりと自己有用感を高める生活づくりを通して～
 - (2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）
本学園では、令和2年度より、「主体的に学び合う児童生徒の育成～豊かな対話から深い学びへつなぐ『しかけ』の工夫を通して～」を主題に設定し、学力向上部会と生活力向上部会を中心に研究を進めてきた。
その中で、学力向上部会では、各学年・各教科等で研究主題に迫れるよう、授業サイクルにおいて、「考える・学び合う」場面に重点を置き、対話を通して深い学びにつなぐための指導の工夫を「しかけ」として、授業づくりを行った。加えて、9年間で育成を目指す児童生徒の具体の姿を明確にし、カリキュラムマップに基づき、主体的な学びを促す単元開発を

行い、「学びのデザインシート」にまとめることができた。

その結果として、表現に関するアンケートにおける児童生徒の肯定的評価の割合は、7月の80.1%から12月の82.4%と伸びがみられた。一方、協働については、79.9%と達成目標値を下回っている。学力においては、下記に示した「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析」の通り、課題が明らかになった。個に応じた手立てや授業サイクルの中で、協働の場면을効果的に設定し、教員のファシリテートによって児童生徒の思考が深まるような授業づくりが必要である。

生活力向上部会では、児童生徒の実態から、自立した生活基盤づくりを目指し、メディア視聴時間のセルフコントロールを促す取組を行ってきた。「スマホやタブレット、ネットゲーム等は、家庭や学校で決めたルールを守って使用しているか」のアンケートに肯定的回答をした児童は71.3%、生徒は75%とともに目標値を下回った。引き続き、生活改善に向けた目標設定と指導、振り返り・評価を続けていく。また、児童会・生徒会の活動の充実と共に保護者への啓発を行い、児童生徒・保護者の主体的な取組になるようにしていきたい。また、協働し課題を解決していく過程を大切にし、地域や異学年等との交流を行った結果、自尊感情や自己有用感が高まりつつあるが今後も取組を継続していく必要がある。

このことから、今年度も引き続き、豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業づくりと、自律と協働により自己有用感を高める生活づくりを通して、「主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒の育成」とすることを目指し、本研究主題を設定した。

〈令和5年度 全国学力・学習状況調査等の結果〉

	倉橋小学校正答率(全国)【全国との差】		倉橋中学校正答率(全国)【全国との差】
国語	60.0%(67.2%)【-7.2】	国語	61.0%(69.8%)【-8.8】
算数	54.0%(62.5%)【-8.5】	数学	47.0%(51.0%)【-4.0】
		英語	33.0%(45.6%)【-12.6】

〈結果分析による重点課題〉

	小学校	中学校
国語	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。 ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。 ・文章を比較して読んだり、必要な情報を的確に捉えること。
算数・数学	・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解すること。 ・日常生活の場面と関連付けて、百分率で表された割合について理解すること。	・自然数の意味を理解すること。 ・数学的用語の意味を理解すること。
英語		・読むこと、書くこと、話すこと ・内容を理解して話すことや即興でやりとりすること。

※小中一貫の取組

- ・授業規律の徹底を図る。「理由を付けて話す」「反応しながら聴く」
- ・授業者は、「授業サイクル」を意識し、日々の授業を大切にする。
- ・授業の流れを視覚化し、時間の構造化を行う。
- ・「聴き方レベル表」を示す。

(3) 研究仮説

豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業づくりと、自律と協働により自己有用感を高める生活づくりを行っていけば、主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒を育成できるであろう。

5 研究内容

〔学力向上部会〕

豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくり

○豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業サイクル
(個⇒集団⇒個〈再構成〉・ICTの効果的な活用)

○課題発見・解決の過程を位置付けた単元づくり
(カリキュラムマップと「学びのデザインシート」の活用)

○授業規律の徹底による学びの土台づくり

○授業改善に向けた合同研修，小中接続を見据えた協働授業

〔生活力向上部会〕

自律と協働により自己有用感を高める生活づくり

○小中合同行事の充実（よさを認め合い，学びを共有）

○地域や異学年等との交流の充実

(地域との関わりを大切にした活動，施設一体型小中一貫校ならではの
日常的な交流)

○主体的な生活改善に向けた取組（目標→指導→振り返り・評価の一体化，保護者啓発）

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
①児童生徒の学力が向上したか	標準学力テスト 小：国語・算数 中：国語・数学 英語	全国平均を上回る学級の割合	(小) 33% (中) 33%	(小・中) 60%以上
②主体的に学び合い，論理的に表現することができたか ア表現に関すること イ協働に関すること	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	児童生徒 (小) ア89.7% イ89.7% (中) ア75% イ70%	(小) 児童 90%以上 (中) 生徒 80%以上
③児童生徒の自己有用感は向上したか ア自己肯定感 イ自己有用感	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	(小) ア86.8% イ80.9% (中) ア77.5% イ77.5%	(小・中) 85%以上
④生活改善をすることができたか ・セルフコントロールに関すること	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	(小) 71.3% (中) 75%	(小・中) 80%以上

※標準学力調査は12月に実施する。児童生徒アンケート7月・12月に実施する。

アンケートの具体例 (児童生徒対象)

②ア「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。」

イ「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています。」

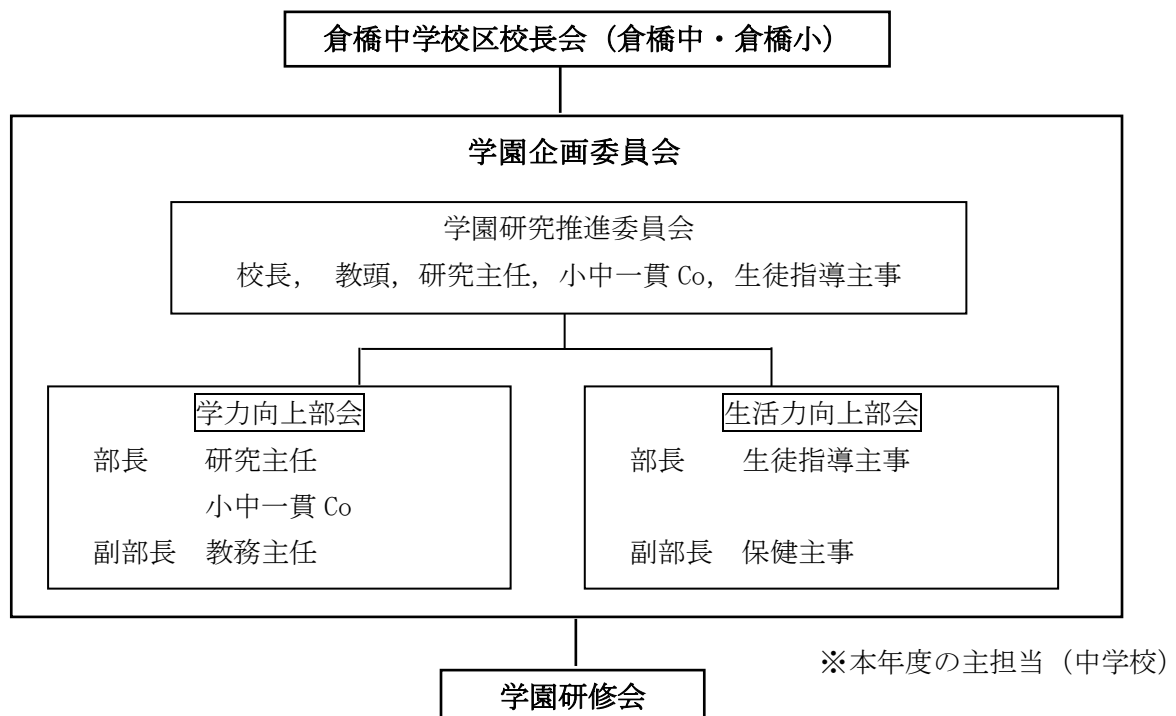
③ア「自分には、よいところがあります。」

イ「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」

④ア「スマホやタブレット、ネットゲーム等は、家庭や学校で決めたルールを守って使用しています。」

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施

乗り入れ授業等 (中→小)

対象学年：第5・6学年 (各学年あたりの時数)

- | | | |
|---|-------|----------------------|
| ① | 外国語科 | (第5学年 5時間, 第6学年 5時間) |
| ② | 算数科 | (第5学年 5時間, 第6学年 5時間) |
| ③ | 理科 | (第5学年 5時間, 第6学年 5時間) |
| ④ | 図画工作科 | (第5学年 5時間, 第6学年 5時間) |

8 推進計画

月 日	研修内容	
	倉橋中	倉橋小
4月10日（水）	全体研修（今年度の方向性の確認）	
5月	授業研究	
6月26日（水）	全体研修（小学校授業） 講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 木下 博義 先生	
6月	授業研究	授業研究
7月	授業研究	授業研究 （特別支援学級巡回相談）
8月22日（木）	全体研修（理論研修）・上半期の成果と課題，下半期に向けて 全国学力調査結果の分析に基づいた方策 部会研修	
9月	授業研究	授業研究
10月8日（火）	全体研修（中学校授業） 講師 広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授 木下 博義 先生	授業研究
10月	小中一貫だより作成 第1号（担当：小学校の小中一貫co）	
11月	授業研究	授業研究
1月	授業研究	
1月29日（水）	部会研修	
2月21日（金）	全体研修（小中合同研修会（今年度の成果と課題，次年度に向けて）	
3月	小中一貫だより作成 第2号（担当・中学校の研究主任）	

※ 全体研修の前には，学園研究推進委員会→学園企画委員会をもって，事前協議・準備を行う。

9 その他

- ・小中一貫だより（年2回発行予定）
- ・小中合同行事（運動会，桂浜清掃，避難訓練 等）

※研究構想図、カリキュラムマップを添付する。